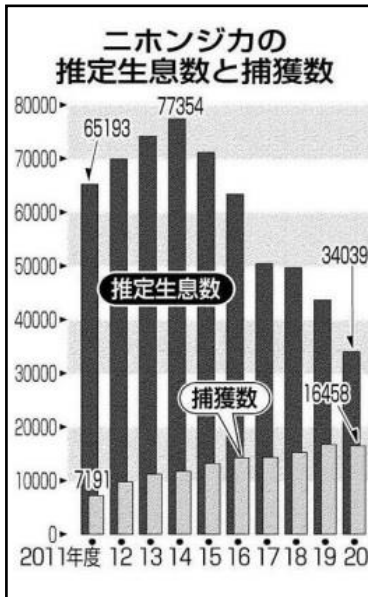


年 組 名 前 :



県内ニホンジカ 生息数22%減少

10年で最少初の3万頭台

ニホンジカの2020年度末時点の県内推定生息数は3万4039頭で、前年度から9603頭(22・0%)減少したことが、県のまとめで分かった。近年捕獲頭数が増えていることが影響したとみられ、過去10年間で最少となっている。県は31年度までに半数の約1万7千頭まで減らす管理計画案を示している。

県自然共生推進課によると、過去10年間で3万頭台となるのは初めて。ニホンジカの推定生息数は14年度末の7万7354頭をピークに減少傾向で、20年度までの6年間で約4万3千頭減った。

農作物の鳥獣害を受け、国が13年度にニホンジカなどの捕獲強化方針を示したことを機に、県も対策を強化。11年度末に7191頭だった捕獲頭数は、20年度末には2・3倍の1万6458頭に増加した。同課は「猟友会が定められた管理捕獲頭数を達成して、3月末までに正式に決定する。最終的には適正生息数とされる4700頭まで減少させることを目標とする。同課の担当者は「ニホンジカは農作物を食べたり、樹木の皮を食べて枯れさせたりする。今後を着実に減らして適正な生息数にしていきたい」と話している。

〈山本昂輝〉

問1 ニホンジカの2020年度末時点の県内推定生息数は、前年度からA%、ピーク時(2014年度末)に比べB%(少数点以下切り捨て)それぞれ減少しました。A、Bに入る数字は何ですか。

- A 「 %」
B 「 %」

問2 次のうち文中の内容と合っているものに○を付けてください。

- 「 」 生息数が過去10年間で3万頭台となるのは初めて
- 「 」 農林業の被害額はニホンジカよりイノシシの方が大きい
- 「 」 最終的には適正生息数4700頭まで減らすのが目標
- 「 」 捕獲するのは主に猟友会のメンバーたち
- 「 」 生息数が大幅に減少したのは病気が原因

問3 農林業被害をもたらす野生鳥獣の捕獲数が増加する中、これを地域資源ととらえ、ジビエ料理として有効活用する取り組みが広がっています。ジビエ料理に活用される動物を6つ挙げてください。

.....

.....

(2022年3月1日付 山梨日日新聞 23面)